

# 星座をさがそう

## 4月、5月のほしぞら

2023年4月1日

三重県立みえこどもの城 ドームシアター

	月のはじめ頃	月のおわり頃
4月	夜 12:00 頃	夜 11:00 頃
5月	夜 10:00 頃	夜 9:00 頃

◆このほしぞらと同じように見えるのは、右の表の時間だよ。



### ★さがしてみよう (春の大曲線)

北の空高くを見上げて、明るく輝く7つの星を繋いで「ひしゃく」(水をくむ道具)、あるいはスプーンのような形を作ることができれば、それが『北斗七星』です。北斗七星は星座ではなく、88個ある星座の中で3番目に大きい「おおぐま座」の背中からしっぽの部分を表す星の並びです。この北斗七星の持ち手のカーブを伸ばしていくと、うしかい座のオレンジ色の一等星「アルクトゥールス」が見つかり、さらにカーブを伸ばしていくと、おとめ座の白色の一等星「スピカ」が見つかります。北斗七星から、アルクトゥールス、スピカを結んでできる長いカーブを「春の大曲線」といい、春の星座を探すためのよい目印となります。また、おとめ座のスピカからさらにカーブを伸ばすと、「からす座」も見つけることができます。

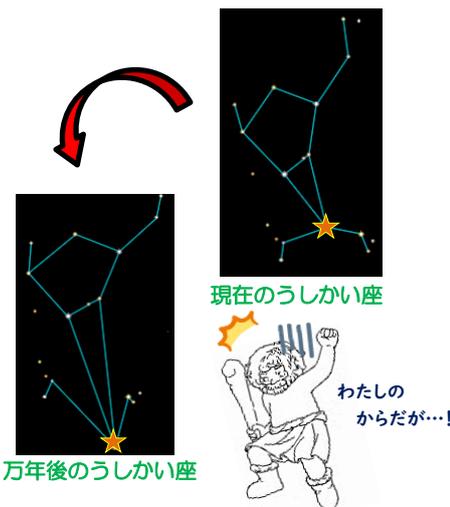


「おおぐま(あ) → アルクトゥールス → スピカ → からす」と、しりとりで覚えてみよう!

### ★今見える星空は「今」だけのもの

夜空の星座たちは、自ら光り輝く「恒星」と呼ばれる星で形づくられています。星座の形はいつも同じように見えるので、恒星は宇宙空間で動かずじっとしているように思えますよね。でも実は、恒星はそれぞれのスピードでいろいろな方向に動いています。1日や1年ではその変化に気づくことはできませんが、何万年という長い目で見てみると、星座の形は少しずつ変わっていきます。例えばうしかい座のアルクトゥールスは、他の星と比べると宇宙空間を移動するスピードがとても速いため、1万年後、2万年後には、うしかい座の形はかなり変わってしまいます。

今から数万年後の人たちは、今とは違う星の並びを見て、どんな星座を想像するのでしょうか。



2万年後のうしかい座